

## ■ パネルディスカッション: 下水道分野における地球温暖化対策の動向

## 第28回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会 パネルディスカッション

開催日程: 10月25日 15:00~17:00

会場: 横浜市開港記念会館 1階 大講堂

テーマ: 下水道分野における地球温暖化対策の動向

座長: 高岡昌輝 (EICA 副会長/京都大学大学院地球環境学堂 教授)

パネリスト: 石崎 隆弘 氏 (国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部 下水道企画課 下水道国際・技術調整官)

川縁 健二 氏 (横浜市環境創造局 下水道施設部 下水道設備課長)

齋藤 利晃 氏 (日本大学理工学部 土木工学科 教授)

福沢 義之 氏 (月島機械(株) 執行役員)

大戸時喜雄 氏 (メタウォーター(株) R&D センター 技師長)

### 下水道分野における地球温暖化 対策の動向

高岡 昌輝

Masaki Takaoka

京都大学大学院地球環境学堂 教授



#### プロフィール

1991年 京都大学工学部衛生工学科卒業  
1991年 京都大学大学院工学研究科衛生工学専攻入学  
1993年 京都大学工学部助手  
2002年 京都大学大学院工学研究科助教授  
2011年 京都大学大学院工学研究科教授  
2013年 京都大学大学院地球環境学堂教授(工学と兼務)

#### 趣 旨:

2015年11月30日~12月11日までフランス、パリで第21回締約国会議が開催され、翌12日に「パリ協定」が採択され、中国、アメリカも含めた地球温暖化防止に向けた新たな国際的な枠組みが合意された。今後の環境分野において最も影響の大きい国際的な枠組みである。様々な取組が期待されるが、地方自治体においては、下水道事業が地方公共団体の事業活動に伴う温室効果ガス排出量の中でも大きな割合を占めており、その対策が必須である。すでに、平成21年には下水道における地球温暖化防止推進計画策定の手引きが発出されるとともに、本年3月にはその改訂版として、下水道における地球温暖化対策マニュアルがまとめられており、2050年における大幅削減に向けて待ったなしの状況である。特に、社会インフラに関わるものはその耐用寿命は長く、これから計画を立てて5年後に導入されると想定すると、そのシステムは2050年においても運用されていることが見込まれる。したがって、現時点の判断は極めて重要である。さらには、地球温暖化の緩和策の立案、実行が優先されるべきものと考えますが、同時に適応策についても検討を始める時期に来ている。

本パネルディスカッションでは、国、地方自治体、企業、大学研究者がどのように地球温暖化防止に取り組んでいるかを報告していただき、他の環境問題やエネルギー・資源問題、人口減少・超高齢化社会問題との関係や技術面・制度面における課題などを明らかにし、今後の下水道事業における地球温暖化対策の位置づけや、緩和策だけでなく適応策への対応について議論をする場としたい。